

『激変するコスメマーケット』

第56回

化粧品で何ができるか、その役割を問う

株式会社フォー・レディー 代表取締役
鯉淵登志子



1982年株式会社フォー・レディーを設立。大手メーカーの業態開発や通販M/D企画のほか販促物制作などを手がける。これまでかかわった化粧品企業は50社余。女性ターゲットに徹する強いポリシーで、コンセプト作りから具体的なクリエイティブ作業を行っている。特に通販ではブランディングをあわせて表現する手腕に定評がある。日本通信販売協会など講演実績多数。
ホームページ <http://www.forlady.co.jp>
株式会社フォー・レディーへのお問い合わせは下記へ
e-mail: info@forlady.co.jp

東日本大震災の後に感じたことだが、今回のような緊急事態に陥ると「化粧品で何ができるか」と考えてしまう。新型コロナウイルス感染症の緊急事態は、当時よりもはるかに大きくグローバルで発生しており、思考停止状態になってしまっているのは私だけではないと思う。

現実には私がお伝えしている通販化粧品のメーカーには、「こんな時に化粧品を売っている」というおしかりの声も届いているようだ。それよりも健康食品で『免疫力アップ』を訴求した方が喜ばれる。大手メーカーでは

不足している消毒液を生産しているの聞く。みんながこの緊急事態に、何か役立つことをしたいと考えているが、では本来の『キレイになるための化粧品』は、外出自粛、ステイホームの中で、何かできるのだろうか。リラクセスしてもらって癒しのホームケア商品はお役に立てそうだが、外に出るための化粧品は、『命を救う』機能はない。そう考えると多少気持ちにモヤモヤが残る、ライフラインの役割はないのかもしれないと思ってしまう。

そんな中、4月22日に放送されたNHKの番組クローズアップ現代で、『イベント自粛』の波紋文化を守れるかを見た。化粧品どころか、文化・芸術・エンタメを含めると、いまあらゆる『アーティスト』が危機に瀕していることがよく分かった。もともと日本はこの分野に対して政府が補助する仕組みが脆弱な上に、今回の緊急事態ですべての劇場が閉じられ、イベントが中止になっているので、この状態が続けば業界として立ち直れないほどの打撃を受けるとのことだ。その中で、演出家の宮本亜門さんや劇作家の平田オリザさんが口を揃えて訴えているのは、い

わば「演劇・アート・音楽・文化は人が生きるための、心の栄養なので、絶対に廃れさせたいいけない」ということだ。フランスでは、国家が『アーティスト』を保護する政策が充実しており、今回でもそれは買われている。化粧品も同じようなものだと思った。「命を救う薬」とは異なるが、化粧品は女性たちが夢や希望や楽しみを与えるものだ。それはつまり「心の栄養」になるのではないのか。戦争や危機の時に、命を守るライフラインの役割はないかもしれないけれど、いつか収束す

る危機の後に、生きる希望や張り合いを与えてくれるもの、なりたて自分自身に近づくことができるもの、それが化粧品なのではないかと思う。そのように考えると、化粧品は平和な時を象徴するモノ、芸術と同じように「人々に希望や、心の栄養を与えるもの」だと思えてきて、少し気が軽くなった。そうであるならば、この危機が収束した時には、みんなを元気づける、そして思いつききりきれいにするような、強いメッセージとコンセプトを発信する化粧品を提供できるように用意しておくべきではないかと思う。



花王

アルコール消毒液の供給体制を強化

4月後半までに20倍以上の増産体制を構築



澤田社長

花王グループでは、今後の感染症予防の高まりを踏まえ、暮らしのキレイを守る「プロテクトJAPAN」活動を推進する。この活動は、花王グループのESG戦略「Ki re i L i f e s t y l e P l a n」の取り組みであり、これをグローバルに拡げていく。

花王（澤田道隆社長）は、新型コロナウイルス感染症予防に必要なアルコール消毒液の供給体制を強化し、4月後半から従来の20倍以上の増産を行っている。これにより、病院・施設等ひっ迫している需要に対応するとともに、家庭での需要にも対応していく。それ以降は、日本以外にも、消毒液の生産を開始する予定で、まずは病院等への寄贈品の生産をドイツから行うが、早急に各地域へ生産を拡大していく。

5月以降は、同社の大阪工場（大阪府大阪市・掛川工場）において4月17日より生産を開始した。



資生堂は、独自に手荒れに配慮した手指消毒液（指定医薬部外品）を新し、毎月合計20万本（約10万リットル）の消毒液を、医療機関などを中心に提供していく。また、厚生労働省から承認を受けた手指消毒液の承認情報（処方）は、他の企業にも広く開示していく。現在、同社は日本国外

手指消毒液（指定医薬部外品）の生産を開始



那須工場

において、消毒液の生産を行っており、フランスでは、バル・ド・ロワール工場（オルレアン市）において、週に約2万本の消毒液を生産し、医療機関へ提供している。また、アメリカでは、イーストウィンザー工場（ニュージャージー州）において初回生産8・5万本の消毒液を生産し、医療機関へ提供している。

6月上旬から滋賀工場でマスクの生産開始

P&G

P&Gは、新型コロナウイルス感染症拡大対策の一環として、世界中でマスクの生産を行うことを

が継続していることから、このほど、スキンケアブランド「SK-II」の生産工場である滋賀工場において、6月上旬よりマスクの生産を行うことを決定した。

生産したマスクは、社員の健康と安全を守るとともに、日常生活で必要とされる同社製品群（洗剤、紙おむつ、ヘアケア製品等）を安定して生産・供給するために使用される。また行政等と協議の上、日本国内でマスクを必要とされる組織に無償でマスクを供給していく。現時点では一般販売は予定していない。

「SK-II」の生産拠点である滋賀工場は、P&Gのグローバルカンパニーとしてのネットワーク・知見を活用し、工場の一部を改装するとともに従業員を動員してマスクの生産を進めていく。